

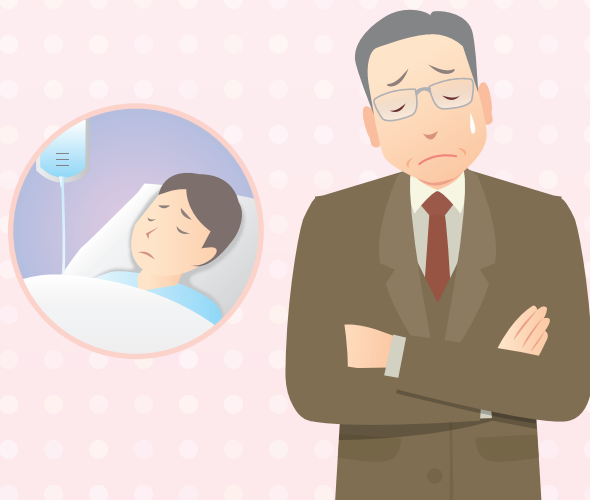
はじめに

① なぜ、社員の健康づくりが重要なのか

職場は健康づくりのフィールド

健康を保持または増進するためには、自分自身が食生活に気を配ったり、定期的に運動したり、時にはリフレッシュし、心を休めることが必要です。働く人にとって、労働時間は一日の中で大きなウェイトを占めており、まさに職場は健康づくりに取り組むための絶好のフィールドと言えます。そのため、企業が社員の健康づくりを積極的にサポートすることで、健康増進に関する効果がより期待できるようになります。全国の労働人口の約7割は中小企業に従事しているため、中小企業による社員の健康づくりの取組みは、個々の企業の生産向上にとどまらず、日本経済全体にまで波及するほどの影響力があります。社員が病気を

防ぎ、健康に働き続けるために、事業主様や人事総務担当の皆さまが、一日も早く社員の健康づくりの重要性を改めて認識し、そして、新たな一歩を踏み出していただければと思います。



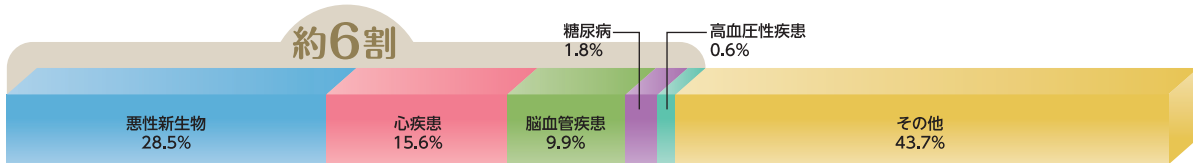
② 生活習慣病の実態

働き盛りの社員を襲う重大疾病

心疾患や脳血管疾患など、生活習慣に起因する疾病は、主に企業を支えている働き盛りの社員が発症しています。療養などによって人員が欠けると、中小企業は大きなダメージを負いますが、社員が倒れて初めて、そのことに気付くことが多いものです。

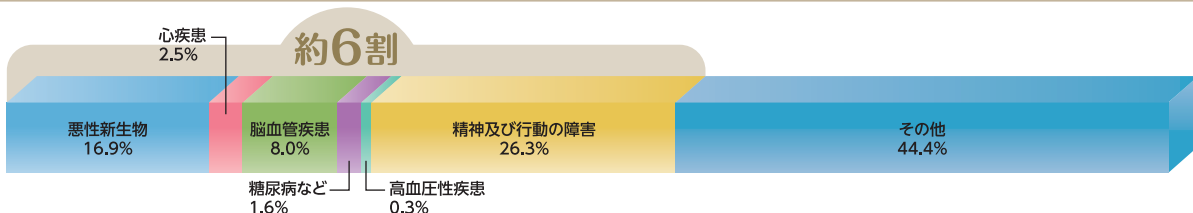
日本人の死因

日本人の死亡原因の約6割が、生活習慣病によるもの
出典:平成23年人口動態統計(厚生労働省)をもとに作成



傷病手当金の疾病別構成割合

傷病手当金を受けた方の約6割が、生活習慣病、精神及び行動の障害によるもの
出典:平成23年度現金給付受給者状況調査(協会けんぽ)をもとに作成



福島県民・協会けんぽ福島支部加入者の健康度(全国の順位)

項目	男性	女性
血圧のリスク保有率※1 (協会けんぽ福島支部加入者)	ワースト1位	ワースト1位
急性心筋梗塞による死亡率※2 (福島県民)	ワースト1位	ワースト1位
脳梗塞による死亡率※2 (福島県民)	ワースト5位	ワースト1位
糖尿病による死亡率※3 (福島県民男女計) 糖尿病が強く疑われる人、可能性を否定できない人を合わせると国民の27.1%を占める	ワースト3位	
喫煙者の割合※4 (福島県民男性)	ワースト1位	-

出典: ※1 平成24年度一般健診・付加健診データ(協会けんぽ)
 ※2 平成22年都道府県別に見た主な死因別男女別年齢調整死亡率(厚生労働省)
 ※3 平成25年人口動態統計(厚生労働省)
 ※4 平成24年度国民健康・栄養報告(厚生労働省)

生活習慣病の重症化による医療費と入院日数

生活習慣病が重症化する長期入院や長期治療が必要となり、本人だけではなく、企業にも大きな影響が生じる

	一人当たり年間医療費※1	入院日数※2	罹患後の負担
心筋梗塞	195万円	17.9日	再発の不安
脳梗塞	112万円	35.5日	片麻痺・言語障害・記憶障害といった後遺症
脳出血	177万円	46.2日	片麻痺・言語障害・記憶障害といった後遺症
糖尿病合併症(腎不全の場合)	540万円	156日(通院日数)	透析による定期通院(週3回程度)

出典: 平成24年度東京都保険者協議会医療費分析部会「医療費の分析とその活用」より引用(糖尿病合併症以外は全日本病院協会2009年1~3月診療アウトカム評価分析結果より資料引用)
 ※1 糖尿病合併症は腎不全による人工透析の場合を想定し、月額を45万円として年間医療費を試算
 ※2 通院日数については週3回の通院×52週として通院日数を試算

